

2020/9/13-3

(うとQ世話し 諺「オイタ」)

本日、二つ目の「オイタ」

諺「オイタ」を思いつきました。

例えば

「泣きっ面に蜂」を「上っ面で恥」

(見てくればかりの知ったかぶりで恥をかく、の意)とか。

「着膨れ(きぶくれ)」を「名膨れ(なぶくれ)」

(中身なしで肩書ばかり膨れる、の意)とか。

「意あれば通ず」を「胃あれば通ず」

(胃腸の働きが活発になればお通じが出易い、の意)とか。

それからの連想で

「憤懣やるかたなし」を「糞便跡形もなし」

(お通じがあれば、腸内に糞便は跡形もなくなる、の意)とか。

「大は小を兼ねる」を「墮意は省を金る」

(お役人さんの墮落した意思是省のお金をカモる)とか

ちょっと「いかにも」のありふれた言い方ですけど。

こうやると結構遊べます。

では、本日分の最後として

「植木等(うえきひとし)」を「無益に等し」

(外見を繕うばかりのことは、すべて無益に等しい、の意)

そしてオマケで

「笑う門には福来る」は、そのまま、

か

「笑う門には不苦、来る」

おそまつさま。